

〈随筆・近況〉

那須野随想 - 大田原の風

松 井 勇

大田原気象通報所は蛇尾川の右岸、大田原城跡の台地にあるが、北西に丘陵を控えている。測候所の位置としては、かねがね疑問をもっていた。聞くところによると、本来の業務が那須岳と八溝山の降水量のロボット観測にあるので、所員の生活に便利な場所が選ばれたとの事である。いずれにしても、ここで測られた風向は、地形の影響を受けて、盆地の一般状況とは異なり、いわば局地風の性質をもっている筈である。試みに1969年の観測結果から、毎日の最大風速時の風向を、自由学園那須農場のそれと比較してみた。自由学園農場は盆地のほぼ中央にあるが、大田原気象通報所と比べて地形の障害が少ない。農場の冬季の風向は、農家の防風林の配置とも一致している。農場の観測結果は、盆地の風向の一般状況に近いものと思われる。ここでは詳細はすべて省略して、もっぱらN成分を持つ風と、S成分をもつ風の2つのグループについて、月別頻度を比べると、次の表のようになる。それによれば、きわめてわずかの例外を除いて、通報所は農場と比較して、年間を通じて、N-の月別頻度が小さく、S-の月別頻度が大きい。通報所では1月にはS-がN-より多く、2、3月には両者の差があまりない。冬季北西季節風が卓越する那須野の中で、局地風の研究には恰好な事例ではあるが、通報所の資料が、盆地の全般的の研究に使われないのは、いささか不便といわねばならない。

N-	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
大田原	10	13	13	5	4	2	8	1	8	16	15	12
自由学園	21	22	23	9	12	7	11	6	9	20	22	16
S-												
大田原	17	10	11	23	21	26	25	25	21	7	10	8
自由学園	8	4	7	18	16	19	16	22	18	8	7	8